

第225回くらしの植物苑観察会 2017年12月16日(土)

サザンカの花色と花形

箱田 直紀(恵泉女学園大学名誉教授 日本ツバキ協会会長)

晩秋から厳寒期にかけての庭先や垣根を彩るサザンカには白花や桃花、紅花があり、花形も一重だけではなく八重咲きや獅子咲きなど様々ですが、これらの基になった野生のサザンカは10～12月に四国や九州などの山地で咲く一重の白花です(図1)。このような野生のサザンカから、今日のような多彩なサザンカ品種が生まれた経過を考えてみようというのが今回のテーマです。

白花サザンカから桃色や紅色花へ

野生サザンカの花は外観から白花と書きましたが、厳密にいうと花弁の先端に僅かに紅色を帯びるものも多く、その中から紅色が濃い個体が意識的に庭に持ち込まれたらしい古木もいくつかあります。ツバキにはむしろ稀な縁紅ぼかしの花(図2)が多いのは、サザンカが本来持っている紅覆輪遺伝子の増幅効果と思われる。しかし、これだけでは花卉全体が桃色(図3)や紅色(図4)を呈する品種の発達経緯は説明できません。

近年の形態や遺伝的な多くの研究の結論としては、江戸時代の初期あるいはそれ以前に、おそらく九州で、開花期が重なるサザンカとヤブツバキが自然交雑し、その雑種がさらにサザンカやヤブツバキ(あるいはその園芸品種)と交雑を繰り返した結果、本来の白花に加えて、濃淡様々な桃色や紅色花、濃色の縁紅ぼかし花が生まれたと考えられています。



図1 野生サザンカの花

図2 サザンカに多い
縁紅ぼかしの花・御美衣

図3 桃色花の東雲



図4 紅色花の根岸紅

一重咲きの花から多弁花へ

野生サザンカの花は花弁数が6～7枚の一重咲きで、江戸時代にも多くの園芸品種が生まれましたが、そのほとんどは一重咲きです。例外として、ツバキの園芸品種が関与したと思われるハルサザンカ群のいくつかの品種(図5)と江戸時代後期に中部地方で現われた獅子頭(図6: 関東へは昭和初期に伝わりカンツバキと呼ばれるようになった)、および明治時代初期に関西方面で生まれたと考えられている富士の峰(図7)がありますが、それらを除くとほとんどが一重咲きで、花の時期も晩秋から初冬とされてきました。吹き始めた木枯しの中で、花びらをはらはら散らすという初冬の花のイメージは一重咲きのサザンカでした。



図5 園芸ツバキとの雑種・三段



図6 八重咲きの古品種・獅子頭



図7 明治初期からの富士の峰

ところが、最近ではサザンカの世界もかなり様子が変わりました。1960 年前後からやや遅咲きですが華やかな八重咲きや獅子咲きの多弁品種が次々と現われ、増殖されて全国に広まりました。

ツバキやサザンカの花が八重や獅子咲きになるのは、6～7 月の花芽が分化発達するときに、本来であれば雄蕊になるはずの器官が花弁に変化するためです。その多弁化の程度はそれぞれの品種が持つ遺伝子によるのですが、近年現われた品種の多くが、八重咲きの因子を持つ獅子頭 (図6) の子供やその子孫と考えられています (図8、9)。獅子頭や多弁品種の多くは、厳寒期に咲くということもあって関東あたりではあまり結実しないのですが、九州などでは結構結実し、その種子を播いて育てると、多弁化程度の異なる様々な花が咲くようです。

八重や獅子咲きなどの品種が広く販売されるようになりから 50 数余年、私たちのまわりでは鮮やかな紅花や重ねの多い華やかなサザンカが晩秋から冬を通して咲き続けるようになりました。冬枯れの庭や生垣の片隅でひっそりと咲いてきたサザンカのイメージまで急速に変化しつつあるようです。

サザンカ花形のまとめ

一重咲き、八重咲き、千重咲き、獅子咲き、唐子咲きなどの表現はツバキと共通です。雄蕊が花弁に変化して花の中心部に乱れて盛り上がるものを獅子咲き、雄蕊の花粉袋 (葯) だけが花弁に変化したものを唐子咲き呼んでいます。花の中に細い花弁と正常な雄蕊が混在した乱れた花形を、昔の武人が使った采配に見立ててサザンカでは采咲きといいます (図10)。また、舞咲きというのもサザンカ独特の表現です。花弁が薄くてねじれやすい花を蝶や鶴の舞う姿に見立てたもの (図11) ですが、蝶や鶴以外にも舞の袖や舞扇のような優雅な名前の品種もあります。

最後に、サザンカでは珍品になりますが、1つの蕾が開くと中から2～3花が開く夫婦咲き (品種名は和合神) や三頭咲 (図12) があり、ワビスケツバキに似て雄蕊が退化した株 (図13) も静岡県下で発見されています。



図8 獅子咲きの新花・今川紋



図9 千重咲きの新花・初光



図10 采咲きの金花山



図11 舞咲きの千代鶴



図12 1蕾から3花が開く三頭咲



図13 ワビスケ型の小鼓

.....

次回予告 第226回くらしの植物苑観察会 2018年1月27日 (土)

「桜草の植え替え体験」山村 聡 (当館博物館事業課 主任 くらしの植物苑担当)

13:30~15:30 (予定) 苑内休憩所集合 申込不要